

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170200481		
法人名	有限会社 ケアマエカワ		
事業所名	グループホーム みかんの里		
所在地	佐賀県唐津市浜玉町南山1938番地1		
自己評価作成日	平成23年1月10日	評価結果市町村受理日	平成23年7月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigojohou-saga.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	平成23年3月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

小高い山の中にあるグループホームみかんの里は、四季折々の自然に恵まれた環境にあります。ホームの畑で栽培している野菜や、花々のおすそわけがきっかけで、地域住民との繋がりも深いです。地域の行事に参加したり、又、ホームの行事等に地域の方々が参加したりと、共に支えあう、地域に密着したホームです。事業所の理念「敬愛・献身・思いやり」は、人生の先輩である入居者の方々への対応だけでなく、地域住民の方々へ込められた理念でもあります。管理者を始め、全職員が理念を十分に理解し、理念に基づいたサービスを提供しており、入居者の方々に対してはそれぞれの個性を活かし、ホーム内で生き活きと、そして伸び伸びと生活してもらっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然に囲まれた静かな高台に立つ平屋建てのホームである。入居者の方々が、故郷でゆったりと過ごしているような気持ちになれるように、との管理者の思いがにじむ、物・心両面からの環境作りがなされている。近隣地域住民との交流もごく自然な形で行われており、地域に馴染んだ事業展開がされている。ホームの理念が職員に理解されており、ひとり一人を尊重した細かな支援がなされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念が玄関に掲示され、毎朝の申し送り時や、ミーティングの際に復唱し、職員が皆、理念の実践に向けて取り組んでいます。	「敬愛・献身・思いやり」のホームの理念がいつも目にするところに掲示され、介護の基本としている。ミーティングや勉強会等で職員に周知徹底され、理念に沿ったかわりを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	みかんの里の畑で、野菜や花々の栽培や、収穫したもののおすそ分けがきっかけで、行事の際には地域の方々にきてもらったり、又、地区の清掃会や会合等の集まりに参加したりと、地域との関わりを密に取っています。	入居者の近辺散歩や、クリスマス会、勉強会等地域へのお誘いも多い。人だけでなく、野菜・花などのやり取りも活発になされている。学校帰りの小学生が立ち寄り、お菓子を一緒に食べたりすることもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に出席された地域の方たち(区長さん、民生委員さん等)と認知症についての話し合いの場を持ち情報を共有しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催される運営推進会議では区長さんや民生委員さん、ご家族の方々の協力もあり、ホームでの事例報告の他、毎回テーマを決め勉強会も行い、サービス向上に繋げています。	2か月に1回、午後に開催している。日々の様子や、事業の報告のほか、テーマを決めての勉強会も行っている。地元の方や家族、職員の参加もあり、サービス向上に取り組まれている。勉強会では、地元の方が講師になる事もある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の場を活用し、担当者との連絡を密にとり、更に、月に1度、市委託の相談員さんに来ていただいた際、相談したり、意見を聞いたりして協力してもらっています。	運営推進会議や相談員事業を受け、意見交換している。困難事例があった時など、相談し、解決への協力・助言をもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠は行っておらず、自由に出入りが可能です。ホームセキュリティーを活用し、安全面に配慮しセンサーで常時、把握できるようにしています。	センサーの活用で自由な出入りとその確認が実践されている。夜間は、警備業者のホームセキュリティーを利用し安全確保している。立ち上がり直後に転倒の危険がある為、車いすに安全ベルト着用者がおられる。現在、安全ベルトの解除に向けて検討を続けている。	今後は、安全ベルトに頼らない取り組みに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	集団指導や研修などで学ぶ機会を持ち、ミーティングの場で職員と共に情報を共有し、防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	集団指導や研修において学び、ミーティングの場で情報を共有しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書等の説明の際、疑問点などないか確認しながら理解・納得してもらっています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に意見箱を設置しています。又、入居者の現況報告等を行う際、ご家族の意見を随時確認しています。意見等があった際は、ホームでの会議で対応を検討し、サービス運営に反映しています。	玄関先に意見箱を設置しているが、面会時に直接意見を伺うほうが多い。また、管理者の携帯電話の番号を伝えており、意見や要望を受けやすい取り組みがなされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの場で提案してもらう機会を設け、運営に反映しています。	ミーティングや、その都度提案しやすい関係ができており、早めの対応ができています。会議で話し合いが必要な内容は、そこで検討され、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社会保険労務士に相談しながら働きやすいように職場環境を整備しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営推進会議時に行われる勉強会には、スタッフも参加できる体制作りをしています。ホーム外での研修については、地域で開催される研修や無料参加の研修の情報をスタッフに提供して参加してもらっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	唐津市内のグループホームの集まりに参加しており、共に情報提供の場として、疑問点や改善点などを話し合い、サービス向上に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の意向を聞きケアプランを作成し、説明を行っています。(同意していただいたらサインを貰うようにしています。)		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の意向を聞きケアプランを作成して、説明を行っています。遠方のご家族には郵送して理解を得るようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の意向を聞き、ケアプランを作成して、説明するようにしています。(同意していただいたらサインを貰うようにしています。)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフは入居者に対し、人生の先輩であるという尊敬の気持ちを忘れず、入居者のこれまでの生活の知恵を活用し、畑の作物作りを習ったりしながら、共に支えあう関係を作っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族の要望を聞き取り、出来るだけ面会に来ていただけるよう対応し、関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気兼ねなく面会に来てもらえるよう家庭的な雰囲気作りに努め、外出時は希望に沿うようにしています。	「面会は大歓迎」との考えの下、面会は自由に来られている。外出も入居者の希望にそった方法で支援されている。遠方の病院受診は、馴染の土地と友人に出会う場所でもあり、関係を途切れさせないための支援の一つとして、実施されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者間のトラブルを防止できるように、目配り、気配りをし、日頃から入居者の方々の関係把握に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院や施設等へ転院・移動してもお見舞いをして、ご家族へも連絡をとり経過を確認しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族からの情報や、日々の生活の中で入居者の生活パターンや個性を把握し、外出が好きな方たちには外出できるよう支援したり通院帰りに買い物をして帰るなどしてご本人の意向に沿える支援をしています。	日々の暮らしぶりや、家族からの情報のなかで、一人ひとりの希望や意向を把握するよう努めている。関わりながら、その都度の対応ができるよう取り組まれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族からこれまでの生活状況を聞き、把握することで、サービスに反映されるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録等で入居者一人ひとりの生活状況を把握し、日々のケアに反映しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、月に一回のミーティングの際にスタッフからの情報や、入居者の方々、ご家族の意見を取り入れ、ご本人の意向を踏まえた計画を作っています。	介護計画は、介護支援専門員が、家族等からの情報や、日頃の様子の中から把握し、ミーティング時に話し合いながら作られている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	3ヶ月ごとのモニタリングの他、問題が発生した際は随時会議が行われ、現状に即した介護計画を作っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の要望に応じ、外出や通院も個別に対応しており、ホームの柔軟さを活かした支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、ボランティア、警察、消防署の方たちに協力していただき安心して生活してもらえるようにしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者、ご家族の希望を尊重し、入居前からのかかりつけ医を可能な限り継続しています。又、24時間体制での協力医療体制も整えており、適切な医療を受けられるよう支援しています。	これまでのかかりつけ医との関係を大切に、受診支援している。緊急時は24時間の協力医療体制も整えており、適切な医療を受けられる仕組みがある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームに看護師を配置しており、日々の健康管理や、受診時、適切な看護を受けられるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は定期的に面会を行うなどして、早期退院を目標に医師、看護師と連携し、情報交換を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者が重度化した場合の対応や終末期の有り方については、ホームの指針を説明し、承諾書を作成してスタッフ、ご家族共に方針の共有をしています。	ホームとしての指針を説明し、承諾を得ている。24時間医療体制が整っており、ご家族も安心されている。重度化した場合は、その都度、主治医・家族・ホームで話し合いし、適切な対応がなされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応マニュアル等を作成し、ミーティング時に勉強会を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の定期の消防訓練(消防署による)を行っています。入居者の方たちにも参加していただく避難訓練を行い、同時に地域の方たちの協力もお願いしています。	年2回、消防署の指導を受けながら、地域の方も参加し実施している。避難口も増やし、地域の方の支援協力体制もできている。自家発電もあるが、地震、水害等の災害時の対応については、4月の消防訓練での検討課題としている。	地震や水害等災害時の対応について、検討が進むことに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の方々のプライバシーの保護の為に、事前に職員からは、守秘義務に関する同意書を取っています。又、日々の業務でも、プライバシーを損ねないような意識付けを行っています。	プライバシー保護や守秘義務については、職員に周知されている。また、入居者を尊重する理念に沿った関わりにも努めている。言葉かけや態度で気になる時は、管理者や主任たちが、その都度注意し、改善している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思い、希望を尊重し、出来る限り自己決定できるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の方々のその時々気分や状態に合わせ、起床時間や食事の開始時間が微調整され、入居者一人ひとりに合わせた支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみに対しては、訪問理容を利用したり、行きつけの理美容店にスタッフが付き添うなどして、その人らしい身だしなみが出るように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で取れた作物を、食卓に出しています。又、食事の準備では豆の韃むき等、入居者のできることを一緒にしながら準備しています。食事中は誤嚥等の事故がないよう入居者の方々の近くで見守り、声かけを行い支援しています。	自家製野菜やご近所からいただいた野菜で、季節のものを中心に、好きなもの、食べたいもの等聞きながら、同じメニューが重ならないよう作っている。蒔の皮むきをしたり、つくしを摘んだり、入居者もできることに参加されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時の摂取量の把握と、定期的な水分の摂取量の把握をしています。メニューは季節の野菜を意識して、野菜中心の栄養バランスが取れた食事を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々のレベルに応じた援助を行い口腔ケアを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	見守り、声かけをおこなうことで排泄パターンを把握し、排泄の援助を行っています。	個別の排泄パターンが把握され、それぞれに合った必要な支援をしている。トイレは、広く使いやすい作りで、自立に向けた支援がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	旬の野菜や繊維質の多い食材を使用した献立を心がけています。又、ラジオ体操や散歩を取り入れることで腸蠕動を促し、便秘予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は月曜から土曜までの午前中と決まっていますが、入居者の方々の要望やその時の状況によって、曜日などの変更をしたりして、対応しています。	主に午前中に入浴されているが、希望やタイミングに合わせて時間帯の変更をされている。シャワーを2台付け、仲のいい方と一緒にすることもできるよう仕組みも取られている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温、湿度に気をつけ空気清浄機等を活用し体調管理に気をつけています。日中は出来るだけ体を動かし、安眠の援助をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	最新の薬の情報を把握できるよう入居者の方たちのファイルに薬の説明書を閉じ情報を共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	農業経験者には畑作りをしてもらったり、俳句が好きな方、歌が好きな方等には、それぞれの個性を活かして、日々の生活の中でご本人が満足できるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の方々の希望に沿って、ホーム周辺での散歩をしたり、自宅に帰ってもらったりと個別性を尊重した支援を行っています。	レストランでの食事会や、花見などホームの行事で外出している。個別に、行きつけの店での買い物や、回転すし屋、自宅への行き来、周辺散歩など、その時の希望を把握し、外出支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談して、お金を預りホームで管理しています。又、外出先での買い物の際はご本人に金銭のやり取りを行ってもらっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に沿って電話や手紙などを利用し、ご家族、友人等に連絡をとってもらおうよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高いことで圧迫感を無くし、開放感ある空間作りを意識して設計しており、サンデッキ、芝生、和室のスペースも広く、ゆったりと過ごせる空間作りをしています。又、季節感を感じられる花々を飾り、自然の光を取り入れた居心地の良い環境づくりを目指しています。	大きなガラス窓と高い天井で、明るく開放感のある共用空間ができている。花が飾られた、広いホールからは外の景色が一望でき、季節を感じることができる。ホーム周囲に遊歩道や庭も整備され、桜やミカンの木、畑を楽しみながら、故郷を感じられるような環境作りに力を入れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはテレビやソファを置くなどして自由にくつろげる空間をつくっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前からの使い慣れたもの(たんす、ベッド、仏壇等)を持ってきていただき、ご本人が安心して生活できるよう配慮しています。	大きなクローゼットとエアコン、ベッドが整えてあり、使い慣れた家具が置かれ、それぞれ個性のある部屋作りができている。居室の窓からは、山や畑が見える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は完全にバリアフリーとなっており、廊下、トイレ、風呂には手すりや滑り止めをつけるなどして安全かつ自立した生活を送ってもらえるように整備しています。		